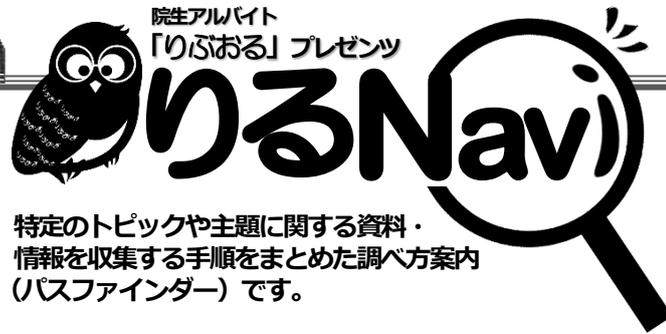


ジェンダー

Gender



りるNavi
Ritssho University
Library Learning Navigation

りぶおる
学生アルバイト「りぶたま(Librarianの卵)」から発展した院生アルバイトの名称。知の象徴である鳥【Owl】から派生して名付けました。知識や知恵を集結させて生かしていく姿が、大学院生たちの精鋭さを表しています。

特定のトピックや主題に関する資料・情報を収集する手順をまとめた調べ方案内(パスファインダー)です。

ジェンダーとは

ジェンダーとは、生物学的な性とは異なる多義的な概念であるが、社会学で最も重要であるのは性別に関わる社会的事実という意味である。(1) 性別規範(「女性」「男性」らしさ、職業、組織、家庭での立場、ふるまい) (2) 性差(個人を性別で分類、集団として男女間の経験的差異。身長、コミュニケーション能力、職業分布など)に分けられる。ジェンダーという言葉は、近年では個人々の自己意識を指したり(この意味では「性自認」、ジェンダー・アイデンティティといった用語が用いられる)、「女性の視点」という意味合いとして用いられる。そこには、女性にとって抑圧的・差別的な社会的現実という意味を含むことが多い。(『現代社会学事典』より引用)

分類 (NDC9版)

図書館の書架を調べる際は、次の分類を中心に探すとよい。

分類番号	分野
360	社会
361	社会学
362	社会史・社会体制
364	社会保障
365	生活・消費者問題
366	労働経済・労働問題

分類番号	分野
367	家族問題、男性・女性問題、老人問題
368	社会病理
369	社会福祉
372	教育史・事情
377	大学、高等・専門教育、学術行政

辞典・事典

以下【 】内は立正大学図書館における請求記号と所在を示す。

■ 『ジェンダー事典』【367.1/J 36 品川 2F 参考】 ジェンダー事典編集委員会編, 丸善出版, 2024
「ジェンダー」に関する基本的な内容のみならず、学術・研究上、また日常生活における身近な事柄まで全 18 章 345 項目で網羅的に解説。293 名の様々な分野の専門家が編集・執筆に取り組んだ事典。

■ 『世界女性史大事典』【367.2/B 71 品川 2F 参考】 L.ブレイクマン編,日外アソシエーツ,1999
女性の地位向上や、諸権利の拡大に関連した出来事、それらの動きを推進したり女性の名誉・名声を高めたりした著名な女性の誕生と死、その人物にまつわる事件など、女性の歴史を年表形式で記述した事典。収録期間は、紀元前 3500 年から 1996 年 5 月までと幅広い。

■ 『岩波女性学事典』【367.2/I-57 品川 2F 参考】 井上輝子,上野千鶴子[ほか]編, 岩波書店, 2002
日本の女性学・フェミニズムを初めて事典として集成した一冊。本事典では国や自治体の女性行政、近現代の女性史、更には心や身体の問題にも重点を置き、女性の問題に関する分野の項目を数多く収録している。

入門書

■ 『ジェンダー論をつかむ』【367.2/Se58 品川 B1 図書】 千田有紀, 中西祐子, 青山薫, 有斐閣, 2013
女らしさ、男らしさとは? 理系に男子が多いのはなぜ? といった普段の常識に思わぬところから問いを投げかける。性別にまつわる日常のふとした疑問をすくいあげ今一度見つめなおす、「ジェンダー学」入門書。

■ 『「ひと」とはだれか? : 身体・セクシュアリティ・暴力』(「ひと」から問うジェンダーの世界史; 第 1 巻)【367.2/H 77/1 品川 B1 図書】 三成美保, 小浜正子, 鈴木則子編, 大阪大学出版, 2024
ジェンダー視点でみる新しい世界史。歴史からひも解く男性性、様々な「らしさ」、「性の多様性」、身体問題などを取り上げている。いつの時代もジェンダー問題が人々の「生き方」に密接に関わっていることが分かる。

■ 『フェミニズム大図鑑』【367.1/Ma13 品川 B1 図書】

ハンナ・マッケンほか著, 最所篤子, 福井久美子訳, 三省堂, 2020

長い年月をかけ、フェミニズムがどのように変遷していったのか、この図鑑では神秘家、作家、科学者、政治家、芸術家など、今も昔も新たな思想、行動、定義、規範、優先事項を生み出してきた多くの人々が登場する。フェミニズムとは何なのか、そういった問いに答えてくれるであろう一冊。

■ 『BL 研究者によるジェンダー批評入門』【778.04/Mi93 品川 B1 図書】

笠間書院, 2023

映画やドラマ、漫画やアニメ、現代アートなどの作品を「ジェンダー視点」で批評するジェンダー批評入門書。「もやもやする」「かっこいい!」といった何気ない作品への感想から一歩踏み込み、それを言語化することを試みることで、様々な作品の見え方が深まるかもしれない。対談形式で進み、資料も豊富なため読みやすい。

雑誌

■ 『立正大学社会学論叢』【R-1/113 品川 B3 紀要 (新刊は3F 開架雑誌コーナー)】

立正大学社会学会

立正大学社会学・社会福祉学会の学会員、ほか学生、教員の投稿論文など収録されている。

■ 『人間の福祉：立正大学社会福祉学部紀要』【R-1/106 品川 B3 紀要 (新刊は3F 開架雑誌コーナー)】

立正大学社会福祉学部

年1回発行。原著論文、総説・展望、調査報告など社会福祉学部教員の研究成果公表媒体。他大学・研究機関との共同研究、実践報告も掲載。

■ 『ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報』【O-11/7 品川 B3 紀要】

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

査読付き投稿論文、依頼論文、研究ノートなど、ジェンダー研究領域の最終研究報告、研究所の事業活動に関する報告を掲載。学際的・国際的なジェンダー研究の発展に寄与している。

■ 『Sexuality=季刊セクシュアリティ』【370.5/96 品川 B3 雑誌 (新刊は3F 開架雑誌コーナー)】

エイデル研究所

「からだの権利」や「性の多様性」など性に関する問題について、主に教育の観点からまとめている。実際に学校現場で取り組まれた性教育について、授業をした教員たちのからの体験記を特集している回もある。

インターネット

学会サイト等

■ 『日本ジェンダー学会』 <https://jp-gender.jp/wp/>

日本のジェンダー平等を目指して学際的・国際的なジェンダー研究を行っている学会。学会誌『日本ジェンダー研究』の刊行のほか、定期的な学会、シンポジウムを開催している。

■ 『国際ジェンダー学会』 <http://www.isgsjapan.org/blog/>

1977年に前身となる「国際女性学会」が発足。2003年に現在の「国際ジェンダー学会」に名称が変更。国際的視野に立脚した学際的アプローチによるジェンダー研究の推進、知識の普及、関係事業の発展を図り、男女共同参画・男女平等社会の実現に寄与することを目的とする学会。『国際ジェンダー学会誌』を年1回発行。

■ 『日本女性学会』 <https://joseigakkai-jp.org/>

1979年、日本における女性学の確立を目標として設立された。ニューズレター、学会誌『女性学』の発行、研究会の開催のほか、選択的夫婦別姓制度をはじめとする民法改正の提言なども行っている。